

家庭教育支援の推進に関する検討委員会（第2回） 議事次第

1 日時 平成23年6月24日（金） 10:00～12:00

2 場所 文部科学省 3F2特別会議室（東館3階）

3 議題 「これまでの家庭教育支援施策の検証・評価」（1）

4 議事次第

（1）これまでの家庭教育関連施策の評価について(委員からの施策評価)

木村委員（新潟県南魚沼市家庭教育支援チーム総括コーディネーター）

伊藤委員（お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科人間科学系准教授）

（2）討議

（3）平成23年度家庭教育支援の効果に関する調査研究（案）について

5 配付資料

資料1 木村委員説明資料

資料2 伊藤委員説明資料

資料3 家庭教育支援の効果に関する調査研究（案）

平成 23 年 6 月 24 日

第 2 回家庭教育支援の推進に関する検討委員会

木村委員原稿

“これまでの家庭教育支援施策の検証・評価”

～学校や地域の連携による支援の観点から～

1. 家庭教育事業の変遷から

平成 16 年度から家庭教育に関わってきた。(今年度で 8 年目)

①平成 16~19 年：『家庭教育支援総合推進事業』（委託事業）

いわゆる、家庭教育支援全般、親業講座から PTA コーラス指導までまんべんなく手当をいただけた。

②平成 20 年：『地域における家庭教育支援基盤形成事業』（委託事業）

今までのようにやってもいいんですよ。“ただし”がついた。支援チームを設置しなければ事業の申請は出来ないんだって！家庭教育支援チームの設置→人材育成から人材の活用へ！

③平成 21 年：『地域における家庭教育支援基盤形成事業』（補助事業）

『訪問型家庭教育相談体制充実事業』（委託事業）

訪問型≡訪問という解釈が独り歩きして、家庭教育支援≡訪問型〇〇事業を解釈してしまった不幸。

④平成 22 年：『地域における家庭教育支援基盤形成事業』（補助事業）

委託事業が終了。加えて県に補助事業の窓口がない→市町村の補助事業断たれる。

まさに、依存から自立へのスタート元年！（金がないのに支援チームが 4 つになった）

市長答弁集より、「いわゆるモデル事業の補助金がなくなったから予算をください！それは通りませんよ。」言うは易く行なうは難し（予算獲得における諺：継続は易く新規は難し）

⑤平成 23 年：『学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業』（新規補助事業）

「放課後子ども教室」・「学校支援地域本部」・「家庭教育支援」。

なぜ家庭教育支援だけ単独で事業申請できないの？

【引用：文部科学省】

平成 22 年度家庭教育に関する文部科学省の施策について（家庭教育事業の変遷、実施状況）

平成 23 年度 “ ” （学校・家庭・地域の連携促進事業）

2. 行政の実態（実感）

・委託事業は、括弧でくくられた知ってる人しか知らないモデル事業。

3. では、担当者である自分は？

・社会教育指導員は、アクションコーディネーターの役割をしていられる状態がベターなのだと思う。。

・文科省の積極的な方針、人材の育成から積極的人材活用への転換。結果、コーディネーターが必要。

4. コーディネーターの役割

・支援チームの活動は、組織の大小やスタッフの肩書のあるなしに関係なく、地味な作業です。

・だんぼの部屋のスタッフは、ただの子育て先輩、地域のおせっかいなおばちゃんに変身できる人。

・コーディネーターの仕事は活動する場を提供するということ。

5、支援チーム「だんぼの部屋」誕生（サクセス・ストーリー）

支援チーム

- ・支援チームを設置しないと、補助金が貰えないんだって
- ・来る人は大丈夫なの。来ない人が問題なの！
- ・学校内に「だんぼの部屋」を設置できたことで、アウトリーチに繋がっていった。

先生

- ・また仕事が増えると思うよね、学校にいと、先生の大変さが身にしみる
- ・言葉での説明より、活動が目に見えることでの効果、先生との信頼関係の芽生え
- ・子どもの情報を提供したり、相談する場所になって行った

子ども&保護者

- ・相談所でなく、しゃべり場サロンだから
- ・子どもからの情報発信から保護者へのアプローチ、支援チーム員のアウトリーチ
- ・「お母さんに会ってよ」と子どもからのメッセージ
- ・いつも同じ服の子ども
- ・資格がなくても出来る事が一杯ある、治療でなくて予防だよ
- ・誰もが出来る、支援の輪
- ・関わりさえ持てれば何とかなることって、いっぱいある。
- ・時間はかかっても、あきらめないこと！継続は力なり。
- ・学校は大人にとっても学びの場、親同士の学び合い、支え合い
- ・支援チーム員も支えられてることを実感。

6. 課題と提案

- ・既存の相談事業や公民館事業を無理にはめ込んだ。
- ・H23年度、新潟県で家庭教育支援補助金申請は2つの市だけ。
- ・肩書が、誰もができない支援の輪にしまっている。
- ・そういう人たちが面倒くさくしている。
- ・『早寝！早起き！朝ごはん！』は、わかりやすい。
- ・一言で説明できない家庭教育支援
- ・プーさんの絵コンテがほしい。

「お金がなくても出来るよね！資格がなくても出来るよね！誰もが出来る支援の輪！」

- ・依存から自立へ！
 - ・その人たちを支えるものは子どもへの愛。
- 「子どもたちはいろんな人に見守られて愛情を育んでいく。あせらず、あきらめず、初心を忘れず、活動を続けていくことが大切」

- ・補助金事業の関係を親子関係に置き換えてみる。
- ・おこづかいのあげ過ぎは良くないって誰もがわかる。
- ・谷底へ落とすのも子育てでしたね。
- ・しかめっ面から良いものは生まれてきません。
- ・子どもをはぐくむのは親の笑顔。

“笑顔の絶えない会議から、素晴らしいものが生まれる。”

◆ 活動紹介 《新潟県南魚沼市家庭教育支援チーム『だんぼの部屋』》

木村（システムコーディネーター）、星野（アクションコーディネーター）の2名

○活動紹介（特色あるもの）

- ・資料に沿って（計画書・立ち上げ行程表・組織図）

○効果（キーワードになるもの）

- ・学校内に設置したことの効果
- ・ピンチはチャンス（依存から自立へ）
- ・資格がなくても出来るよね
- ・お金がなくても出来るよね
- ・ピラミッド型からネットワーク型へ
（誰もが出来る支援の輪）
- ・モットー

色んな人が関わることが大切

“あきらめず・あせらず・初心を忘れず・欲張らず”

- 地域人材と行政・NPOとの協働のあり方
- 学校を拠点とした地域活動の連携方策
- 地域人材の養成・活動方策
- 教育と福祉の連携方策
- 企業等における取組方策
- 父親の家庭教育への参加促進方策

○今後の展開（連携→融合→集約へ）

学社民融合

- 学校支援ボランティア
- 家庭教育支援チーム
- 学校（学校内の空きスペースを提供）
- 行政（活用でなく、活動できるよう体制支援）

一体的な支援の体制作り

◇ 文科省「社会全体で支え合う家庭教育支援」

- ・学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業
- ・全国家庭教育支援研究協議会の開催
- ・子どもの生活習慣づくり支援事業
- ・「早寝早起き朝ごはん」国民運動の全国展開

◇ 新潟県「社会全体で子どもをはぐくむ運動」

- ・【家庭教育支援】家庭教育支援民間型提案協働事業
- ・【学校活動外支援】放課後子ども教室推進事業
- ・【学校活動支援】学校支援地域本部事業

縦割り行政の再構築→機構改革が必要

- 放課後こどもプラン
- 子ども若者ビジョン
- 子ども子育てビジョン
- ワークライフバランス
- 男女共同参画
- 新しい公共

生まれる前から20歳（30歳代）までの一貫した支援体制づくり
＜予防・相談・対処＞

《子ども・若者育成支援センター（南魚沼市教育委員会）》

「だんぼの部屋」

- ・民間、NPO？
- ・半官半民？
- ・行政？

地域に密着した支援体制の整備

スタッフ全員 肩書き・特別な資格なし

南魚沼市家庭教育支援チーム 《だんぼの部屋》

～学校の中にある 教室でもない、職員室でもない部屋～

毎日灯りをつけて、みんなを待っています。
お茶をしながらのおしゃべり、つぶやきが
活動のヒント

例えば

～輪になってお菓子を食べながら、じっくりと～

だんぼ学習会

- ・発達障害の理解
- ・親トレーニング
- ・児童虐待の対応

図書ボラ養成講座

- ・本の修理・整頓
- ・読み聞かせのコツ
- ・本のカバーで
リサイクルバッグ

～講師はイケメン高校生～

中高生ボランティア大活躍

リピーター多し 感動の絵本読み聞かせ

準備が大変だけど楽しいのでやめられない

親子もの作り教室

- ・シュシュ作り
- ・ポップアップカード作り

親子で料理教室

- ・白玉スイーツ
- ・簡単パエリア
- ・じゃがいもピザ

～ 目標は文字を少なく、手作り風に ～

だんぼ広報

- ・月1回発行
- ・メッセージカードの配布

私達はつぶやきの大切さを知りました。

特に子どものつぶやきは聞き逃さないようにしています。

- ・だんぼの部屋専用ブザー設置（写真参照）
- ・市内の学校にだんぼの部屋をもっと増やす（現在4校）
- ・学校の中でほっとできるスペースは子ども達にとっても親にとっても必要。



～学校からこんなつぶやきも～

今年は初めて子どもを小学校
に入れる保護者が半分以上
いるんだけど…。

こんなの初めて！

就学前説明会で

保護者が安心するために

- ・はじめましてこんにちは
 - ・小学校デビューおめでとう
 - ・一緒にトライ（ゲーム等）
 - ・先生より感動の読み聞かせ！
- 感動のあまり涙する保護者も

活動当初は

学校は聖地？！

◎まずは学校探検

- ・学校だけでは限界がある
- ・学校だけの問題ではない

◎だんぼも協力しようとしたが

- ・その思いが伝わらず戸惑う
でも・・・子ども達が
学校と家庭とだんぼの部屋を
つなげてくれました。

本当は学校も困ってた。

でも私達は気付かなかった。

学校を聖地にしていたのは私達かも

☆信頼関係は

時間をかけてゆっくりと

取組の成果

- ・みんなが安心してつぶやける場所ができた。
- ・みんなの力を発揮する場所ができた。
- ・親子で共同作業する楽しさを知った。
- ・役に立つ自分を発見できた。
- ・学校・保護者・関係機関のチーム作りがスムーズになった。



親子料理教室
子どもも大人も笑顔いっぱい！



集合写真だ！



「だんぼの部屋」で～す。

取組のポイント

- 無理せずできることを続ける
 - ・広報紙配り
(学校・保育所・企業・行政)
 - ・地域の大人として対応
(先生でも保護者でもない大人)
- 提案を却下されたら、一旦引く
 - ・案を練り直しよう 1 回トライ
- 活動を楽しもう
 - ・義務感や責任感ではシンドイ

大丈夫！ ちゃんと見守る人がいるよ ～大事なのは思い続けること～

いつも自分の気持ちを言える場所だったらもう大丈夫！なんでもできるよ。勇気もわくよ

発信したことが受信されなくても大丈夫！
いつか周波数ピタリのアンテナが見つかるはず。
くたびれたら休んでも大丈夫！
ちょっと周波数を調整してみるのもいいよ。
大事なのは発信し続けること。

いつも自分の気持ちを大事にすること。
気づくと人の気持ちも大事にしているよ。

以上
「だんぼの部屋」で大切にしていることです。



チーム名：南魚沼市 家庭教育支援チーム「だんぼの部屋」

活動開始：年月日 平成20年6月

活動人数：20人

どのような人が活動しているか：

みなさんいろいろな肩書きをお持ちのようですが、「だんぼの部屋」では単なる子育て先輩、ただの地域のおせっかい屋さんに変身して活動しています。

団体住所(連絡先)：「だんぼの部屋」(六日町小学校内) 025-772-2067
949-6772 新潟県南魚沼市二日町428-1

南魚沼市 子ども・若者育成支援センター 025-773-6611

(担当：木村 義隆)

平成22年度・南魚沼市家庭教育支援チーム「だんぼの部屋」活動実績

【訪問活動・来訪、月別一覧】

月	訪 問	来訪		
		保護者	子ども	その他
4月	19	11	70	12
5月	15	52	40	6
6月	47	113	189	22
7月	28	30	134	34
8月	24	32	52	5
9月	28	86	158	19
10月	36	46	152	12
11月	21	67	109	12
12月	21	37	101	9
1月	25	45	78	24
2月	30	64	95	23
3月	26	35	117	23
合 計	320	618	1、295	201

【県委託事業：だんぼの部屋主催】

日 付	内 容	会 場	参加人数
9月12日 ～12月16 日(8回講座)	「新潟県家庭教育支援 民間提案型協働事業」 親業訓練一般講座	南魚沼市民会館	家庭教育支援チーム 魚沼市4名、柏崎市1名、 南魚沼市関係者26名 《延べ参加数142名》
1月20日	親業訓練講座・番外編	南魚沼市民会館	家庭教育支援チーム 魚沼市3名、柏崎市0名、 南魚沼市関係者16名

【家庭教育支援、企画・講座】

日付	内容	会場	参加人数
5月18日	第1回だんぼ学習会 発達障害の理解と支援	大和公民館	参加者30名 (だんぼ含む)
6月19日	第1回だんぼ料理教室 高校生講師による パエリア教室	六日町小	生徒 16名 保護者 10名 スタッフ 11名
6月25日	メッセージカードの配布	六日町小	新1年生親子 80組
7月12日	メッセージカードの配布	塩沢小	新1年生親子 57組
9月7日	メッセージカードの配布	北辰小	新1年生親子 50組
10月16日	第2回だんぼ料理教室 高校生講師による パエリア教室	塩沢小	生徒 12名 保護者 9名 スタッフ 11名
10月27日	就学前保護者交流会 「はじめましてこんにちは」	六日町小	保護者約80名 教職員2名 スタッフ4名
11月14日	第3回だんぼ料理教室 高校生講師による パエリア教室	浦佐小 (働く婦人の家)	生徒18名 保護者11名 スタッフ10名
11月9日	就学前保護者交流会 「はじめましてこんにちは」	大崎小	保護者約30名 教職員2名 スタッフ5名
12月11日	第4回だんぼ料理教室 高校生講師による ポテトピザ教室	北辰小	生徒12名 保護者10名 スタッフ9名
2月2日	第2回だんぼ学習会 児童虐待の理解と対応について	大和公民館	参加者17名 (だんぼ含む)
2月10日	就学前保護者交流会 「はじめましてこんにちは」 <体験入学>	北辰小	保護者59名 教職員4名 スタッフ4名
2月15日	就学前保護者交流会 「はじめましてこんにちは」 <体験入学>	六日町小	保護者約80名 教職員 4名 スタッフ4名
2月22日	就学前保護者交流会 「はじめましてこんにちは」 <体験入学>	塩沢小	保護者約70名 教職員4名 スタッフ4名
3月12日 震災で中止	第4回だんぼ料理教室 高校生講師による ポテトピザ教室	六日町小	生徒 名 保護者 名 スタッフ 名

【だんぼ通信：春休み号で、通算25号発行】

5月号	～ほっとスプーン「だんぼの新学期編」～								
6月号	～ほっとスプーン うんどうかい～								
7月号	～ほっとスプーン だんぼの部屋 OPEN～								
9月号	～ほっとスプーン 夏休み〇〇からの贈り物～								
10月号	～ほっとスプーン 陸上大会 みんな頑張ったね！～								
11月号	～ほっとスプーン 学習発表会みんなえらかったね～								
12月号	～ほっとスプーン たくさん来てくれてありがとう～								
1月号	～ほっとスプーン あけましておめでとございます～								
2月号	～ほっとスプーン 親善スキー大会 みんなの力～								
春休み号	～ほっとスプーン 卒業式がたくさんありましたね～								
配布数	六小	北辰小	浦佐小	塩沢小	六中	六日町地域	大和地域	塩沢地域	事務局 その他
2,280	400	350	200	400	500	150	100	120	60

【研修会】

日付	内容	会場
6月10日 11月5日	家庭教育支援事業の企画力向上セミナー <参加者：4名×2日>	県立生涯学習推進センター
9月7日、28日、29日、10月19日	家庭教育支援者ステップアップ研修会 <参加者：7名×5日>	県立生涯学習推進センター

【支援チーム交流会】

日付	内容	会場
8月27日	交流・情報交換 (支援チーム 柏崎市・魚沼市・南魚沼市)	六日町小学校 南魚沼市中央公民館
11月24日	交流・情報交換(大崎小はなさきプラン、学校支援読み聞かせボランティア:浦佐小、北辰小、六日町小、塩沢小)	六日町小学校
2月16日	交流・情報交換 テーマ「図書ボランティアの楽しさ～長く続けるコツは～」(大崎小はなさきプラン、学校支援ボランティア交流会)	大和公民館
3月12日 震災で中止	交流・情報交換「新一年生を迎える会」(塩沢小土日誌編集委員、親子もの作り・母のお茶会)	塩沢小

【その他】

日付	内容	会場
7月7日	文部科学省 全国家庭教育支援研究協議会地方ヒアリング	六日町小学校 南魚沼市中央公民館
9月13日	文部科学省 今後の家庭教育支援のあり方に係る有識者ヒアリング《有識者ヒアリング・意見交換会》	文部科学省
11月25日	新潟県教育庁 社会全体で子どもはぐくむ運動 《分科会 交流会・情報交換会》	長岡市 中之島文化センター
11月27日	文部科学省 第1回全国家庭教育支援研究協議会 「社会全体で支える家庭と子育て研究フォーラム」 《分科会 家庭教育支援チームミーティング、 トークセッション・コーディネーター》	日本科学未来館
2月6日 <欠席>	文部科学省 第2回全国家庭教育支援研究協議会 「子どもを見守り育てる『新しい公共』研究フォーラム」	独立行政法人 国立財 務・経営センター 学術総合センター

学校臨床の視点から

お茶の水女子大学 伊藤亜矢子

“早寝 早起き 朝ご飯 運動” の次は…

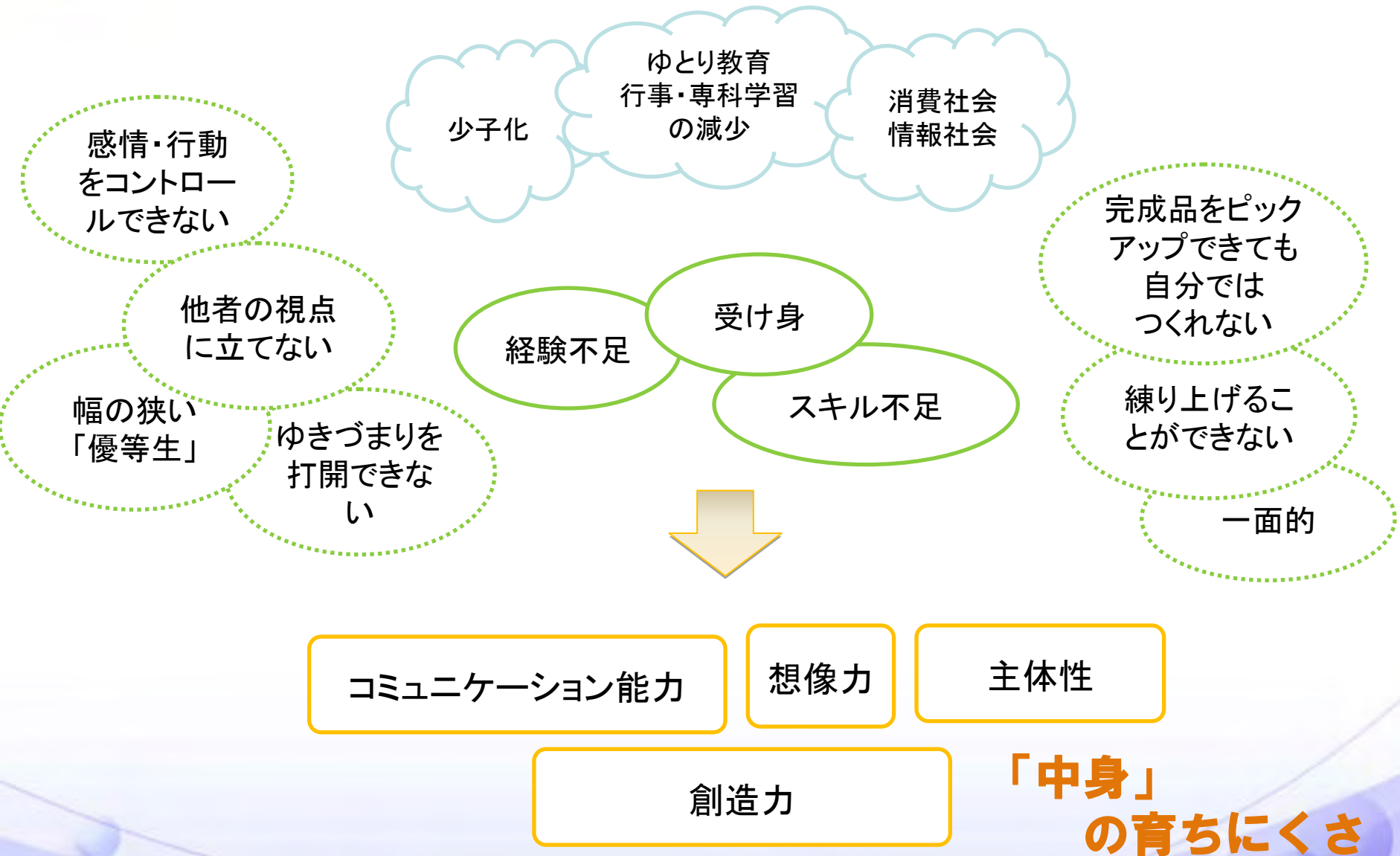
“あいさつ お手伝い 運動” !?



学校臨床の現場で感じる 子どもの育ち

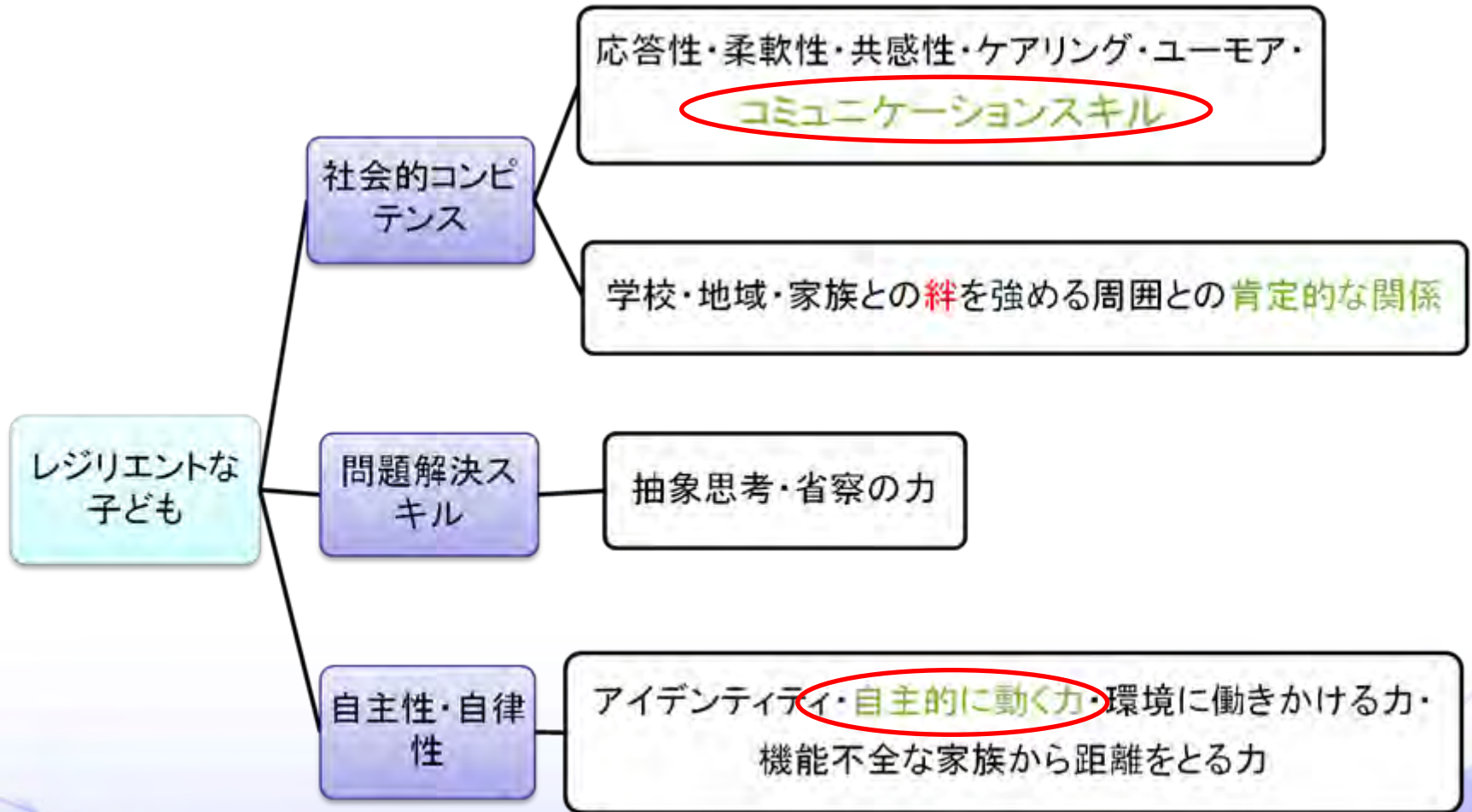
難しさと理想・・・

子どもの育ち・・・ 明るく、センスよく、現実的で、受信能力高いけれど



レジリエントな子ども

(困難に際しても回復力のある
・しなやかな・頑健な子ども)



Benard, 1993より

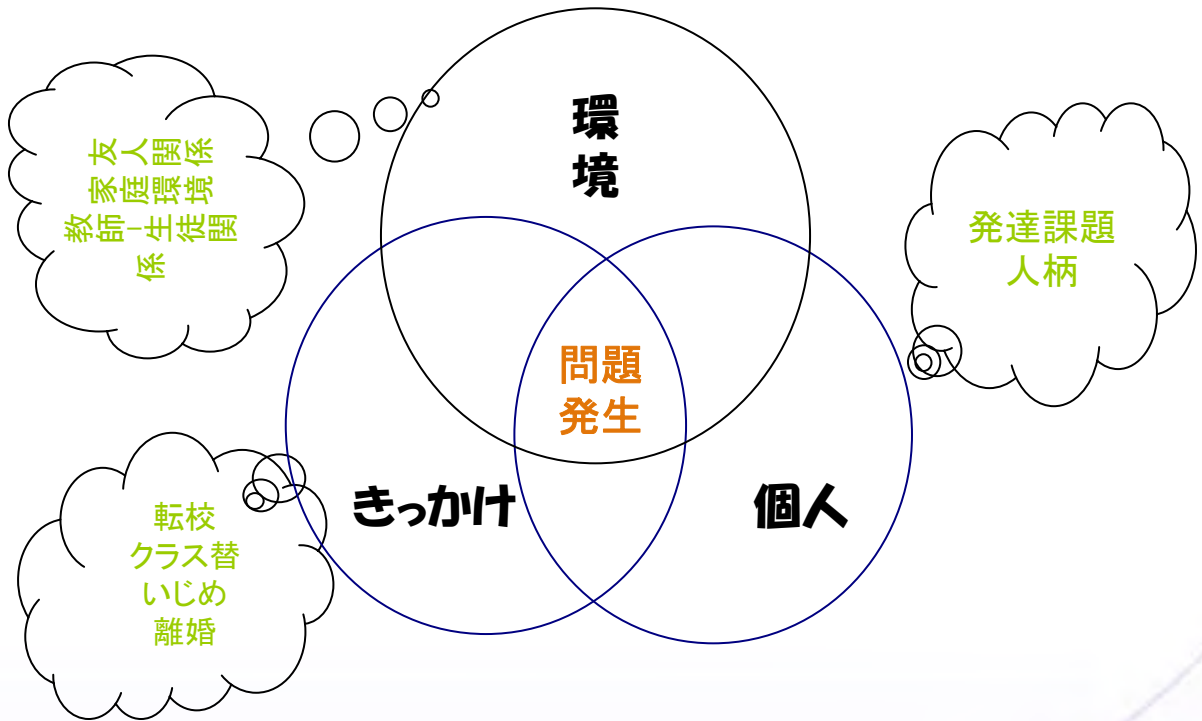
子どもの育ちを支える環境

● 環境の大切さ / 問題を予防する環境, 発生させる環境

- 学校環境
- 家庭環境
- 地域環境

子育ては
ひとりではできない！
子どもは
ひとりでは育てない！

たくさんの方が関わる
“子育て”環境を



伊藤, 2009より

子どもの発達を支える「発達資産」を増やす環境づくり

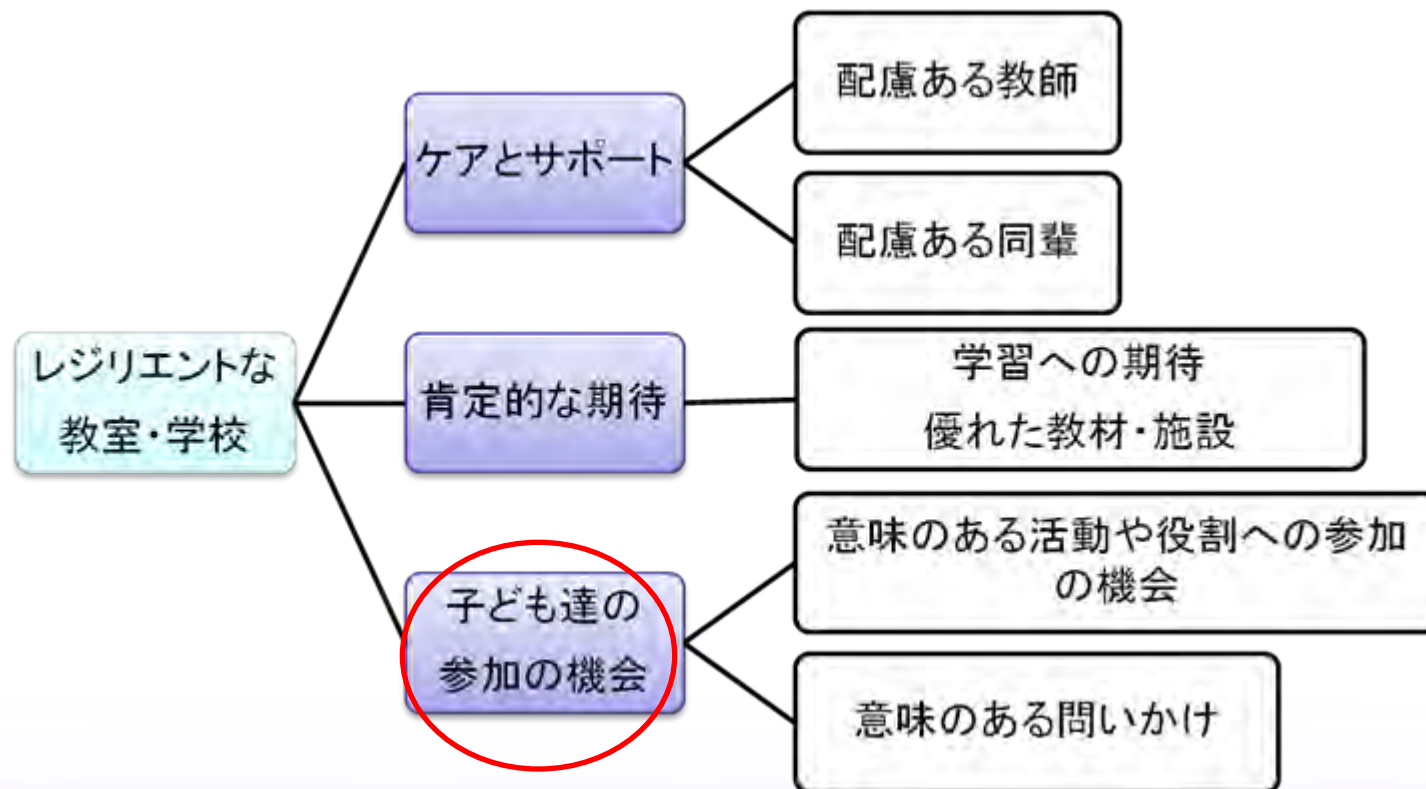
国立教育政策研究所
社会教育実践研究センター（2006）


子どもの発達資産

子どもの発達力



レジリエンシを養う学校環境づくり





子どもの育ち

実際には・・・

家庭で

- 親も生きるのに精一杯・親自身の心理的発達課題
- 貧困からの虐待
- 子どもたちを「ひきこもり」「ニート」「非婚」にしたいくない 必死の思い → 塾 焦り ライバリティ
- 公立学校への不信
- 少子化 → 子どもを生きる親 代理戦争
- 教育虐待 非貧困からの虐待

- 二極化? と すみわけ?
- 守られ 主体性を奪われる子
VS
必死で生きるけれど 守られない子
スキルと学習機会を保障されない子

<参考>

国公立9医学部合格者1981年約8割が公立高校出身。2005年約8割が私立高校出身

大都市+小学校低学年から+経済力・階層
・・・「機会の平等が保証されない社会」

(中川さおり「誰が医者になるのか」平成17年度お茶大大学院社会臨床論コース
修士論文/GCOE公開講座「格差とは何か」耳塚寛明教授)

学校で・・・ 公教育は大丈夫？・・・

小学校

<教師・授業>

- 教師の多忙化と世代交代
- ‘モンスターティーチャー’？！
- “その場で授業”
- 教師のメンタルヘルス

<ゆとりないゆとり教育>

行事 体験

中学校

- 塾は必須？

高校

- 高校の多様化
- 授業の不成立

大学

- 予算減
- 評価づかれ

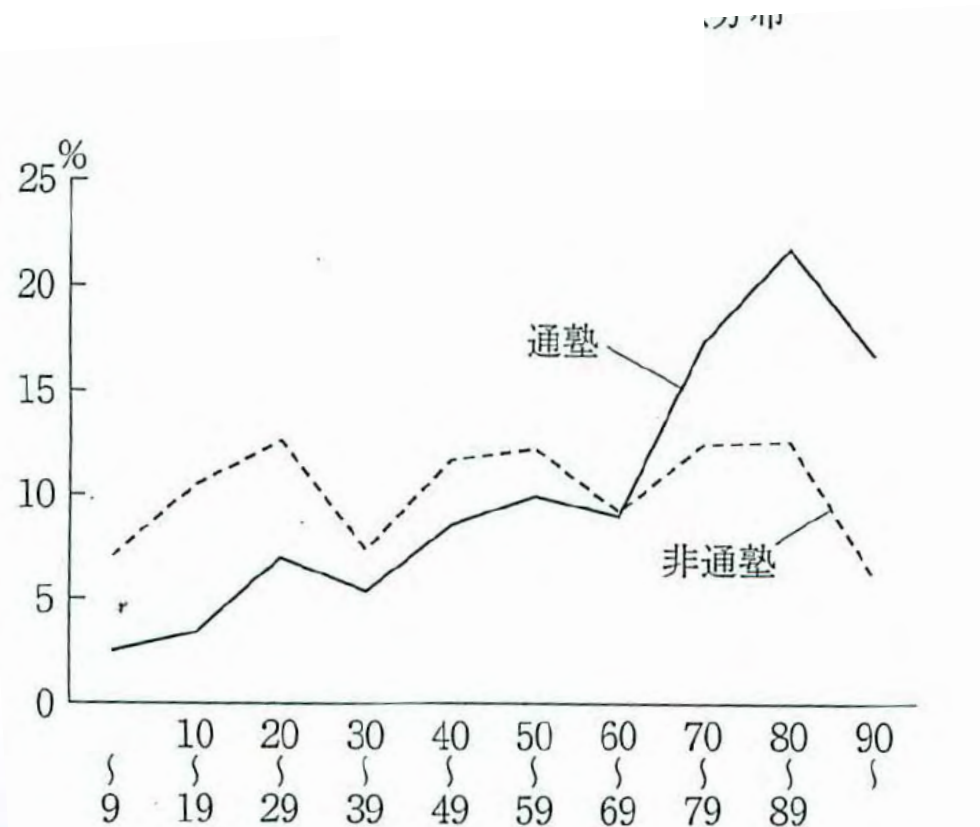


図2-6 通塾別・中学校数学得点分布



人間関係を構築しづらい 学級風土

● 学級風土はつくられる

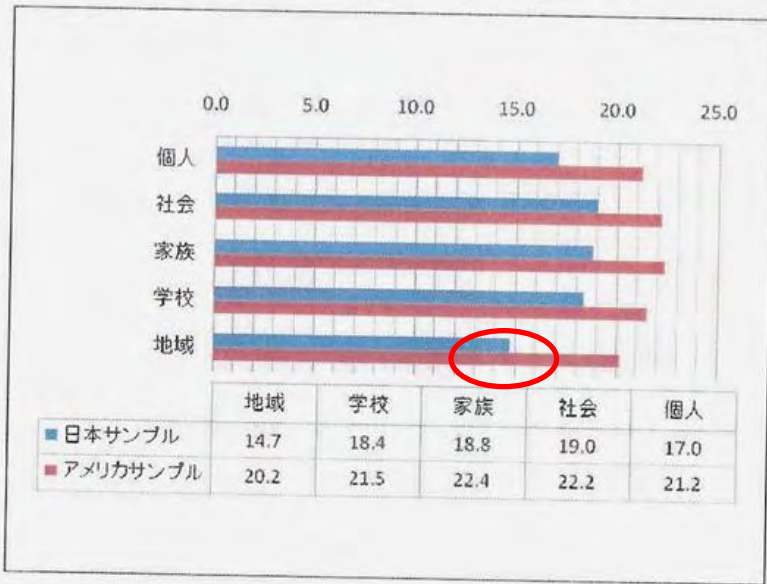
…関わり合う / レジリエントな風土づくりを

子どもと関わりのない地域 …… 子どもの生活満足感の国際比較調査から

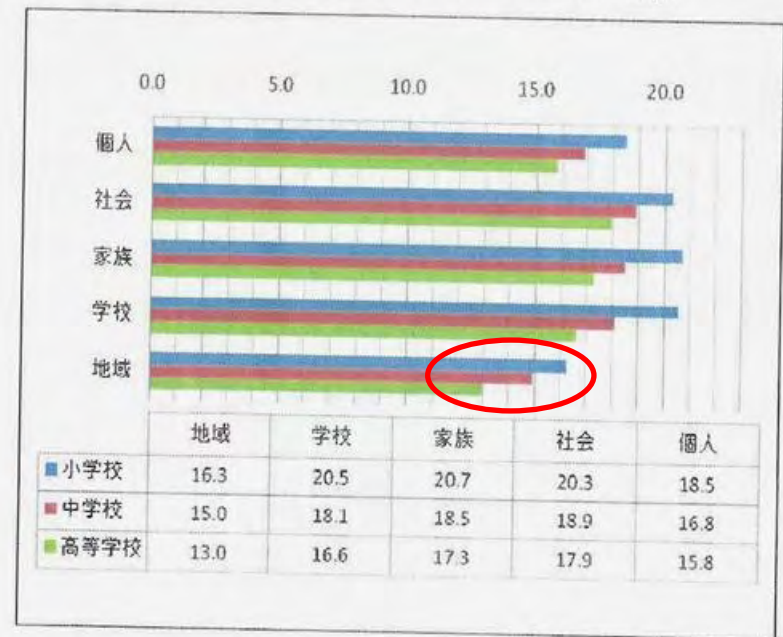
発達資産の調査から

・・・ここでも「地域」の低さ

図表6 「支援の場」に関する全体像



図表7 「支援の場」による小中高の比較



相原次男 ウィルソン・エイミー 岩野雅子(2011)
 日本の子どもの発達資産に関する研究－「発達資産プロフィール」調査の分析を中心に－
 山口県立大学学術情報3号 1-16

発達資産 ……細かく見ると

発達資産調査

相原・ウイルソン・岩野(2011)

相原次男 ウィルソン・エイミー 岩野雅子(2011)

日本の子どもの発達資産に関する研究―「発達資産プロフィール」調査の分析を中心に―
山口県立大学学術情報3号 1-16

＜高かったもの＞

親からの支援

安全安心な学校・地域

手本になる友人がいる

＜低かったもの＞

親のアドバイスを(子どもから)求める


人に役立つ仕事や役割を与えられている

家庭に守らなければならない明確な規則がある

地域をよくするための活動への参加

肯定的なアイデンティティ

学ぶことが楽しい



子どもの育ち・・・希望は？

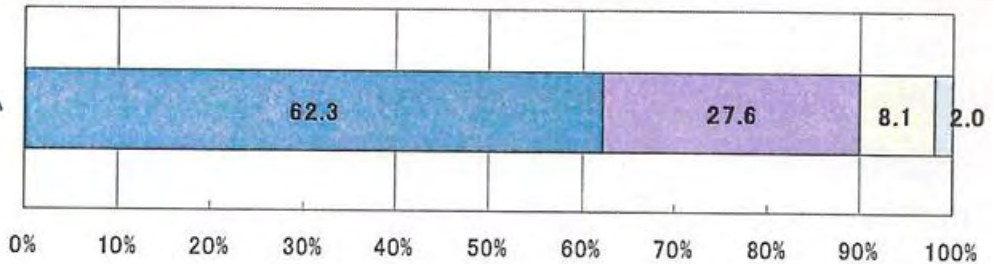
どうすればよい？

あいさつ（小学6年・中学3年）

小学生の約9割、中学生の約8割が近所の人にあいさつをしている。

小学生(6年)

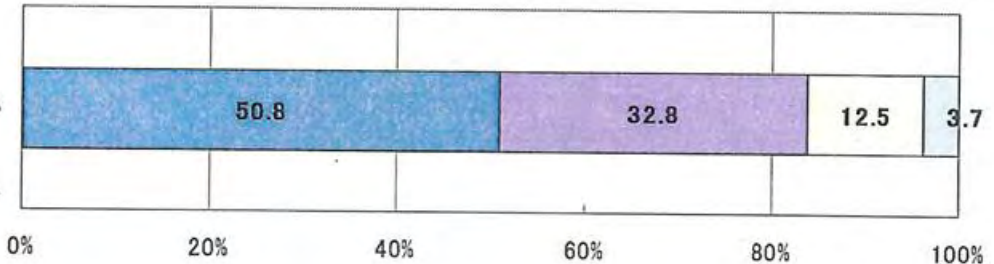
近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか



■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる □ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

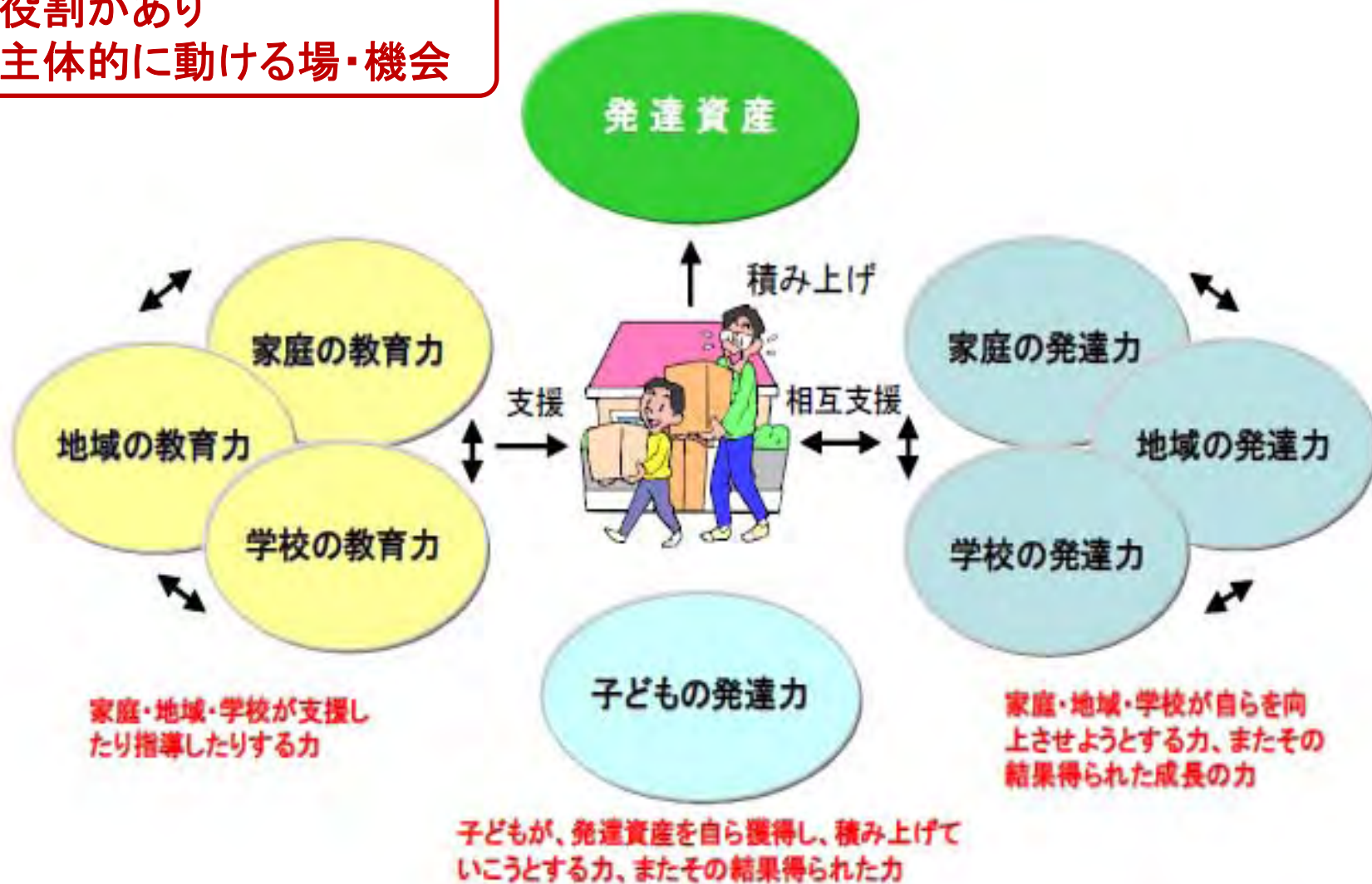
中学生(3年)

近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか



■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる □ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

役割があり
主体的に動ける場・機会

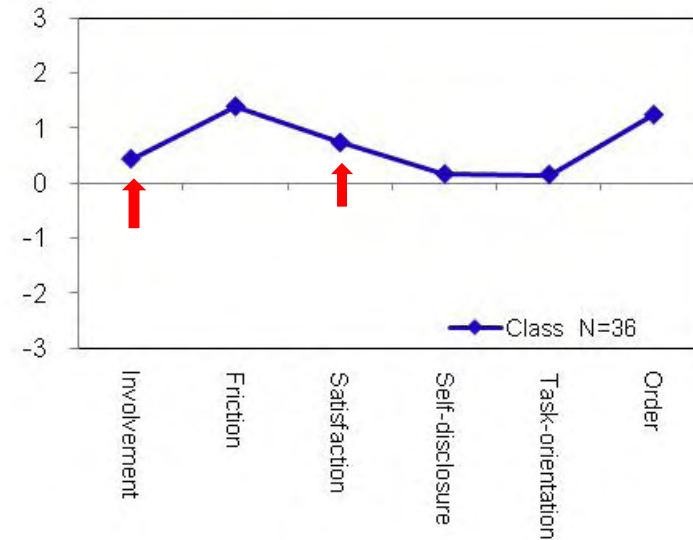
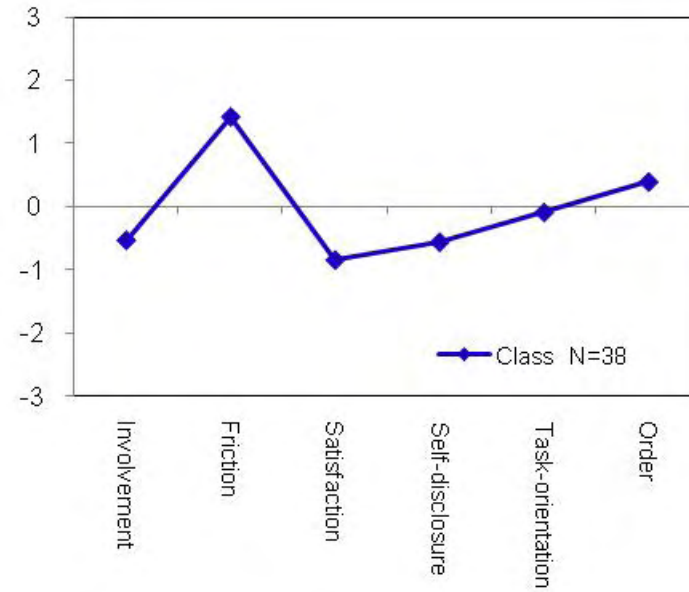


国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター (2006)



変化する学級風土

小さな工夫が大きな違いに！



Ito,A. (in press) Enhancing school connectedness in Japan:
The role of home room teachers in establishing a positive
classroom climate *Asian Journal of Counselling*18巻

地域・家庭・学校の協力で、主体性を発揮できる場を



国立教育政策研究所
社会教育実践研究センター (2006)

学校・地域・大人にできること

役割があり
主体的に動ける場・機会

- 意識 を変える
- 小さな工夫 をする
- システム をつくる

- システム改革の保障

- 役割・やり方を変える

- 小さな工夫・行動
 - 声かける
 - 励ます・ほめる・認める・関心を持つ
 - 小さな助け合い
 - 小さなイベント

例えば 小学校でも

<共稼ぎが増えている … PTA活動を保障するシステム改革>

- 専業主婦 と ワーキングマザー をつなぐ
- 学校の意識改革
- 会議時間の工夫
- 通信手段の活用

<他にも>

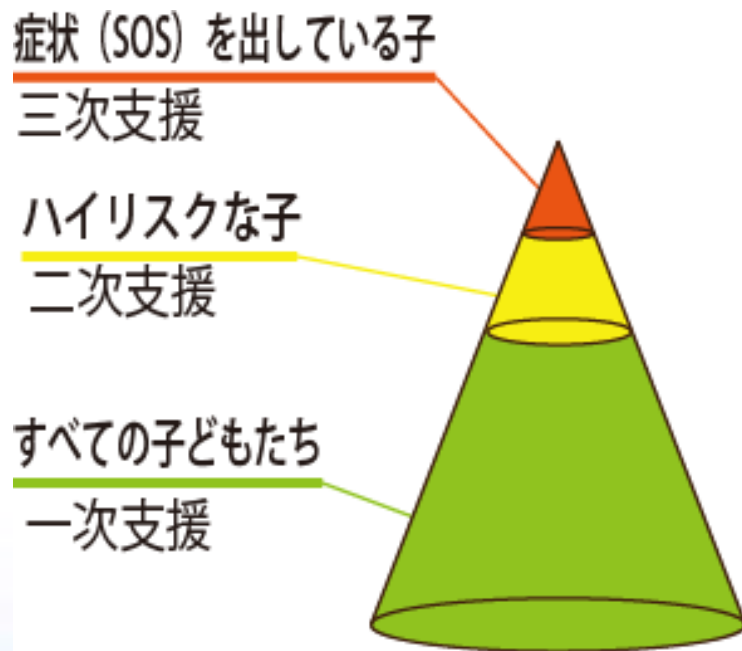
高学年の教科担任・
学年担任制



例えば スクールカウンセリングも

三次支援から、すべての子(全校)を対象とした
一次支援＝予防・成長促進的支援へ

保護者・学校の連携の促進へ



全校型支援のモデル

伊藤(印刷中)

パートナーシップ
例)
ボランティア
保護者の授業
学校参観

意味のある参加
魅力ある授業
開かれた学校

学校



意味のある参加
周囲とのつながり

ゴール
コンセプト
活動を支える
資金や根拠
互惠性
システム

地域活動
例)
タウンワークス

家庭



意味のある参加
周囲とのつながり
多世代の交流

地域



子育て支援
例)
子育て広場
保育ママ
専門家の支援と非専門家の支援

文献

- Benard,B. (1993) Fostering Resiliency in Kids. *Educational Leadership*, 1993Nov, 44-48.
- 伊藤亜矢子(印刷中)小冊子スクールカウンセラー活用パンフレットー学校という場を生かした支援のためにー 東京法規出版
- Ito, A. (in press) Enhancing school connectedness in Japan: The role of home room teachers in establishing a positive classroom climate *Asian Journal of Counselling*18巻
- 伊藤亜矢子編著(2009)改訂版学校臨床心理学ー学校という場を生かした支援ー北樹出版
- Ito,A.&Smith,D.(2005) Predictors of School Satisfaction among Japanese and U.S. Youth *Community Psychologist*, 38(4),19-21.
- 国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター (2006)平成17年度社会教育事業の開発・展開に関する調査研究事業「子どもの成長過程における発達資産についての調査研究報告書」
- 相原次男 ウィルソン・エイミー 岩野雅子(2011)
日本の子どもの発達資産に関する研究ー「発達資産プロフィール」調査の分析を中心にー
山口県立大学学術情報3号 1-16

家庭教育支援の効果に関する調査研究(案)

課題

近年、国として、家庭教育を支える環境の変化、家庭をめぐる問題の複雑化等への対応として、

■「家庭教育支援チーム」による支援手法の開発を実施(約100箇所)

(地域の子育てサポーターや教職員OB、民生委員・児童委員、臨床心理士などのチームによる訪問等による相談対応や孤立化防止支援)

→支援者の主観的評価だけでなく、支援された家庭や学校(教職員)からの客観的・多角的な評価も含め、学校・家庭・地域全体の教育環境への効果分析が必要

→効果検証に基づいた手法の有効性やノウハウの提示により、全国への普及展開や各地における地域課題等に応じた支援の活性化を図ることが必要

調査研究の必要性

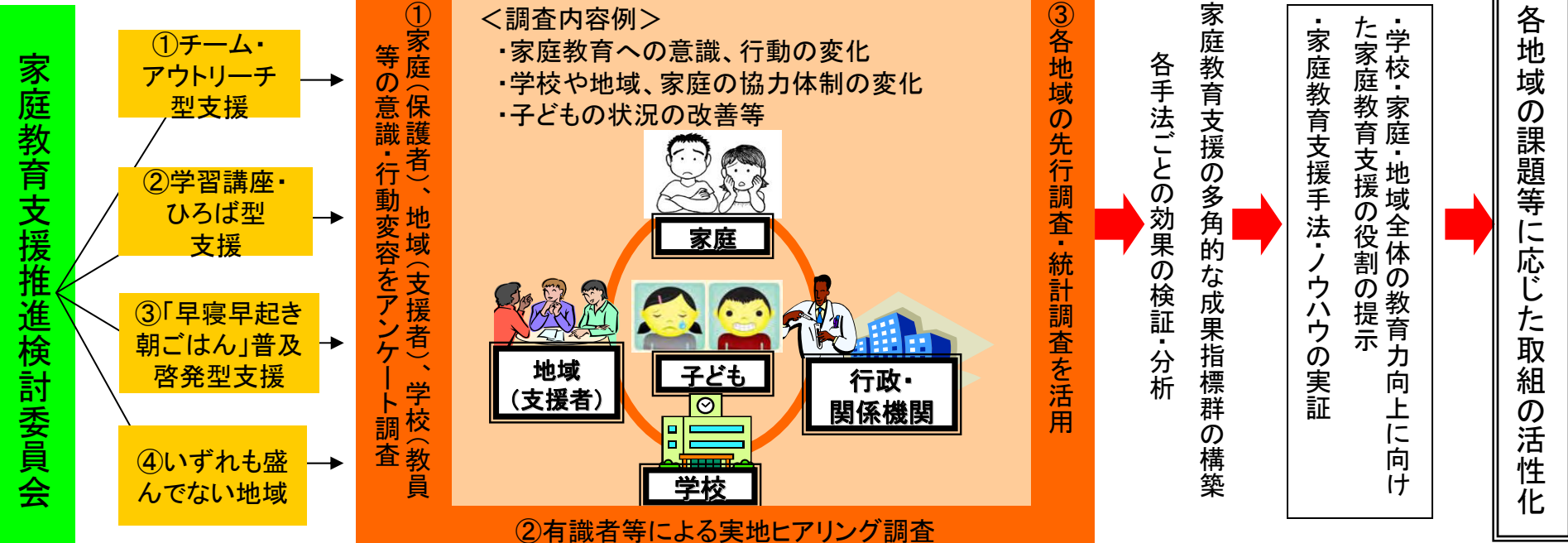
■地域等から求められている事柄：各地方自治体が今後、地域の課題や実情に応じて取組を推進する際に、活用できる効果検証
現在進めている、学校・家庭・地域の連携における家庭教育支援の役割や効果

■調査研究により明らかにする事柄：

- 「チームによる支援」、従来の「講座型支援」、「早寝早起き朝ごはん」などの普及啓発といった手法の異なる施策ごとに、
- 施策の実施により、家庭(保護者)、学校(教職員)、地域(支援者等)の意識や行動がどのように変容するのか
- 家庭の孤立化の解消や地域の絆の深まりなど、学校・家庭・地域の信頼や協力関係がどのように変化するのか
- それにより、保護者や子どもの地域参画の促進や不登校などの社会的課題の予防・早期対応に、どのように寄与する可能性があるか

調査研究概要

結果の活用



平成23年度家庭教育支援の効果に関する調査研究（案） 概要

1. 趣旨・目的

都市化や核家族化、少子化、雇用環境の変化等を背景とした、子育てや家庭教育を支える環境の変化等を踏まえ、様々な家庭教育支援施策が展開される中、

①家庭教育支援を通じて地域の意識や教育力がどのように変容するのか、

②また、それにより、社会的課題（児童虐待、不登校、非行、自殺、就業率等）等に対しどのような効果があるのか

といった、効果についての十分な分析が不足している。また、取組の改善点等について、学校、家庭、地域のそれぞれの立場からの把握・分析が必要となっている。

本調査研究は、家庭教育支援を通じた家庭や地域の意識・行動の変容と、地域の教育力や社会的課題に与える影響を様々な指標から分析し、家庭教育支援の効果や役割を明らかにすることで、今後の施策や取組の推進に役立てる。

2. 委託内容

家庭教育支援の取組状況、取組手法や支援対象等により、以下の（1）～（4）の地域について、支援対象等による区分で地域を選定し、これまでの家庭教育支援の取組の効果に関して、学校（教職員）、家庭（保護者）、地域（支援人材等）及び行政を対象に、施策実施による意識変容や成果、今後の改善すべき点、当該地域の子育て環境に対する満足度等についてアンケート調査及び実地ヒアリング調査を実施するとともに、児童虐待相談件数や子どもの不登校・問題行動等の割合、子どもの学力や体力の状況の推移など、家庭や子どもの教育に関連する様々な指標からの客観的な効果測定を行い、成果の分析、検証を行う。また、可能な限り過去の各地域の調査研究等の結果等とリンクさせ、経時的な変化についても分析を行う。

さらに、分析結果から、各地域の家庭教育支援の施策効果の客観的評価が可能な評価指標群および評価方法について提案する。

なお、調査研究は、文部科学省が設置する「家庭教育支援の推進に関する検討委員会」の助言を得て実施し、詳細は文部科学省と相談すること。

（1）対象地域区分

①チームによるアウトリーチ型支援を実施する地域

【支援対象による区分：乳幼児のみ、乳幼児～思春期 × 各都市部2・農村部2 = 8地域】

（調査対象：保護者、支援者、教員、教育委員会）

チームによる訪問型の家庭教育支援実施地域から選定。

②学習機会の提供やひろば（子育てサロン等）を中心に実施する地域

【支援対象による区分：乳幼児のみ、幼児～思春期 × 各都市部2・農村部2 = 8地域】

（調査対象：保護者、支援者、教員、教育委員会）

長年にわたり、家庭教育に関する学習機会の提供を実施する地域（公民館等における乳児向け中心、学校における幼～思春期実施）から対象地域を選定。

③早寝早起き朝ごはん運動を特に推進している地域

【支援対象による区分：

地域全体での普及啓発、学校での取組× 各都市部2・農村部2 = 8地域】
「子どもの生活習慣づくり取組事例集」等から積極的な取組を実施する地域を選定。

④上記のいずれの取組もあまり推進していない地域

【都市部2・農村部2 = 4】

(2) 主な調査内容

上記の区分により選定された対象地域において、以下の調査を行う。

①保護者向けアンケート サンプル数3,000件程度

- ・子どもの生活習慣や教育に対する意識・悩み
- ・地域の子育て環境や学校に対する意識・協力体制等に関する満足度
- ・取組の認識度や満足度、課題
- ・取組による、子どもの教育に対する意識・行動の変容や効果
- ・取組による、地域や学校に対する意識・行動の変容

②教員向けアンケート

- ・子どもの生活習慣や教育、学級運営等に対する意識や悩み
- ・保護者や地域に対する意識・協力体制等に関する満足度
- ・取組の認識度や満足度（学級運営等の負担軽減や改善含む）、課題
- ・取組による、子どもの生活態度や学習意欲、問題行動等への効果
- ・取組による、保護者や地域に対する意識・協力体制の変容や効果

③地域の支援者向けアンケート

- ・地域の子どもの生活習慣や教育に対する意識・活動参加への意識
- ・保護者や学校に対する意識・協力体制に関する満足度
- ・取組への満足度や課題
- ・取組による、地域の子どもの教育に対する意識や、活動参加意欲の変容
- ・取組による、保護者や学校に対する意識・協力体制の変容や効果

④教育委員会向けアンケート

- ・家庭教育支援の取組の効果や課題、必要な取組
- ・家庭教育支援における国・都道府県・市町村の役割認識、要望
- ・家庭や子どもの教育に関連する基礎データ

(家庭の状況、児童虐待相談件数、子どものいじめ・不登校・問題行動等の割合、学力・体力の状況、就業率、出生率等)

⑤アンケート調査をふまえ、上記①～④の各対象地域区分について実地ヒアリング調査を行う。

また、調査研究の目的に沿った調査項目の追加を行うことも可能とする。具体的な設問、回答選択肢については、企画提案することとする。

さらに、アンケート調査及び実地ヒアリング調査の分析結果から、家庭教育支援施策効果の評価を行うとともに、各地域の家庭教育支援の施策効果の客観的評価が可能な評価指標群および評価方法について提案する。